

は小音楽堂のそばにあって、この花を見にゆく頃は、卒業も間近です。子どもたちのホッペは、リンゴのように赤くなり、入園当時の弱々しさは見られません。かれらの大好きな歌の一つ御紹介しましょう。「子どもは風の子、風の中、子犬も風の子、風の中、トットトット、かけまわる。びゅうびゅう北風、もつと吹け」こうしてかれらの肉体的成長はもちろんですが心の成長もすばらしいものがあります。創造性ゆたかな心は、絵に手技に遊びに現われ、ころんでもひとりでおきる、自分のことは自分でする、自主性のある子どもになりきっています。そして、広々とした自然に、いつも接しているのです、こせこせしないおらかな明るい子になっています。がまん強い人を許せる子にするためには、実演して興味をもたせました。倉橋先生作の「太郎さんがかけて来た」もよくうたいました。人には親切にすること、正しいこと、正しくないこと、礼儀正しいことなどを、理解させるためにも実演は効果的です。

楽しい良いことばかり書きましたが、保育者にとって、つらいこともあります。午前中は少いのですが一般来園者もあることですから、自由遊びの時は、目を園のすみずみまでいきわたらせています。六十名の園児に先生

三人、実習生二人ですから、手はありますが一人は必ず全体に注意しとくに便所には気をつけております。

野外保育は外だけで良いものでしょうか、実際にやってみると、雨の日風の日がありません。帽子かけ、道具入れも必要です。保育者も園児も安心感がないと、楽しい保育ができません。設備は立派でなくとも、やはり家が

園外保育

小林 操

幼稚園において、園の外に出ていく保育も野外保育の一つといえるでしょう。四季の移り変わりや、自然に親しませるために、周到的計画を持って、有効にこなさねばならないでしょう。

幼稚園の施設外に出て行って、園内では経験のできない生きた直接の体験を与えながら保育しようというのが園外保育であろう。小中学校における校外教授とか現場学習に該当するものが園外保育であって、幼稚園や保育所内の生活ではどんなに行き届いた教師の指導があっても、範囲の狭いことや、直接の経験が少くないことなどの条件に保育活動を制限されることはやむを得まい。それを補うた

必要です。日比谷の場合、約三十分の集会は家で致します。ピアノによる歌も、リズム楽器の使用も、つみき、スライド、テープレコーダーも室内でします。お弁当も冬はストーブで暖められたものを戴きます。みどりの木陰に厚いごさを敷いて、食後の休息に天を仰ぐ時、野外保育は良いなあと思います。

(筆者は日本児童遊園協会指導主事)

めに園外保育の意義が一層深められてくる。幼児に与える経験はできるだけ、範囲を広く、なるべく直接的であり、実際であることが望ましい。幼児たちは、こうした経験によって、注意深く物を見る習慣が養われ、さらに正しく考え、正しく行動することを学ぶのである。今日では、どこの幼稚園でも保育所でも園外保育を重んじて実施しているのであるが、

園外保育の場所が、その都度同一でないだけに、実施計画が綿密に立てられなくては所期の目的を達することが困難である。園内または所内における教育計画とは違って、その幼稚園なり、保育所なりの所在する地域の状況によって目標も異ってくるので、自然指導計画もちがってこななくてはならない。つまり都市の幼稚園や保育所と、農漁村の幼稚園、保育所の園外保育とはその目標にちがった部分があるので、計画もれの場合に即応したものが立案せられなくてはならない。

「幼稚園教育要領」の幼稚園教育の内容が示す、望ましい経験を見ると、東京の園内保育で指導することはいうまでもないが、園外保育による新しい場においての指導が一層望ましいと思われるものが非常に多い。

一、健康——園外保育の新しい場においては望ましい経験と思われるもの。(特に◎印の項は園外保育の主な目標として取り上げたものである)

- ◎遊びのあとよごれた手足や顔をきれいにする。
- ◎はなをかむ。汗をふく。
- ◎手ぬぐいやハンカチはきれいなものを使う。
- ◎ちり紙やハンカチをいつも持っている。

- ◎はな紙や紙くずはきめられた所に捨てる
- ◎水飲場の手洗場などをきれいに使う。
- ◎食事の前に手を洗う。
- ◎食事の前後、しばらく静かに休む。
- ◎よい姿勢でおちついてよくかみ、こぼさないで食べる。
- ◎食べ物好ききらいを言わない。
- ◎楽しく食事をする。
- ◎便所ですりすまらずに排便する。
- ◎用便のあと手を洗う。
- ◎適切な服装で仕事や、遊びをする。
- ◎日光にあたる。炎天下では帽子をかぶる。炎天下や寒い所で長遊びをしない。
- ◎疲れたら休む。運動や食事のあと静かに休む。

- ◎楽な姿勢で休む。
- ◎いろいろな運動や遊びをする。ほこりやごみの多い所で遊ばない。
- ◎からだのぐあいが悪くなったときは、すぐ教師に知らせ、手当をうける。
- ◎設備や用具をたいせつに扱い、じょうずに使う。
- ◎けがをしないようにする。

◎印のついた項目も平素、幼稚園や保育園での保育で当然重要な目標になってはいるが園外保育という幼児にとつての新しい場にお

いて、直接指導することが、一層成果をあげるものと思われる。

二、社会——園外保育の新しい場において望ましい経験と思われるもの。

- ◎自分でできることは自分でする。
- ◎きまりを守る。
- ◎物をたいせつに使う。
- ◎友だちと仲よくしたり協力したりする。
- ◎人々のために働く身近の人々を知り、親しみや感謝の気持をもつ。
- ◎身近にある道具や機械を見る。

園外保育に出た場合は、社会に関する経験が、幼児の身近かに豊富に、しかも直接にあるので、とくに指導上いい機会だと思われる。

三、自然——園外保育の新しい場において望ましい経験と思われるもの。

- ◎身近にあるものを見たり聞いたりする。
 - ◎動物や植物についてよく見たり、いたわったりする。
 - ◎身近かな自然の変化や美しさに気づく。
 - ◎いろいろなものを集めて遊ぶ。
 - ◎機械や道具を見る。
- 園外保育において、とくに自然については計画の重点をなすものであろう。それだけに指導者は十分精密な立案を必要とする。

四、言語——特に園外保育の新しい場に限る望ましい経験はないにしても、幼児はのんびりと話し合い、呼び合う機会が多いので、教師の指導が一層有効になると思われる。

五、音楽リズム——園外保育の新しい場において、教師や園児と共に楽しく歌い、ゆかいに動きのリズムで表現するのふざわしい機会である。

六、絵画製作——実際に直接に経験した事柄を帰ってから園内の保育で絵画製作に生かしていくことはいうまでもない。

以上やや冗漫のきらいはあったが、幼稚園教育の内容の六分野において、園外保育の機会を捕えて指導することが、一層効果をあげると思われる項目を考えて見た。こうした経験の全般にわたってすべて指導の万全を期するということは困難であるが、計画立案の際にこれらの諸点を十分考慮することは大切である。一面かように園外保育によって効果をあげると思われる項目の多いことを考えると幼稚園、保育所における、園外保育がいかに重要な位置を占めるかということがわかる。ことに繁華な都市にある幼稚園、保育所では事情の許す限り園外保育の機会を多くしたいものである。

農漁村における幼稚園、保育所の園外保育

は前に挙げた望ましい経験のうち、どれに重点をおくかは、都市の場合と自然異ってくるものであるが、都市における場合は、農漁村よりも一層、園外保育を重視して、教育効果を挙げるように運営したい。

園外保育を実施するに当って、大切なことは、目的地の選定であるが、これには、まず主な目標を定めこれを充たす場所を選定しなくてはならない。そのためには、指導者は、実地調査をし、交通関係、遊び場所、食事の場所、休息の場所、水の有無、便所の設備等を詳細に調査して立案しなくてはならない。

園外保育に出かける前には、幼児たちと、見てくるものについての話し合いをし、興味をもって現地に行くように準備をし、帰ってからは、見てきたものについての発表、いろいろの表現活動、ごっこ遊びなどに発展させる計画が望ましい。園外保育についての考え方がはっきりしていないと、所期の目的を達することができない。従来、園外保育をレクリエーションを主とした遠足のように考えて、父母の同伴、幼児にふさわしくない程の遠出が行われているようであるが、この点については十分検討して、はっきりした方針を決定しておくことが大切である。

子どもが小さいから附添いが必要だという

考え方は一応教育活動からは取り除きたいと思う。幼児は父兄の附添いがなくとも、自主的に乗物の乗降りもすれば、食事の始末もすれば、排便手洗なども自分でやってのける。決して人に依存しようとしな。むしろ自分でやるところに大きな誇りをさえ感じてい。指導者が、時間をかけ、ゆっくりと順序を追って指導すれば立派にやるのである。附添いなしの一回の園外保育で、幼児は、どれだけたくさん経験の身につけ、その後の生活に役立つ体験を積むかはかり知れない。

しかしながら、父母に幼児の生活の実態を理解させ、集団における自分の子どもの位置の理解をねらうならば父母も附添って園外保育にまた別の意義がある。父母の附添う園外保育も年に一、二度は実施してもいい。その際には多少遠くてもよいが、よりだいたいなこととは、実施の方法をよく検討して、附添いのない幼児の扱いか、幼児と附添いとは別のか、指導の面を忘れてしまったような実施はよくない。

園児だけの園外保育は、目標をはっきりさせ、幼児の疲労をよく考えて、適切な計画を立てて実施しなくてはならない。いづれもそのたび毎に新しい場所を選ぶ必要はない。例

えば、私の園では春夏秋冬と明治神宮の外苑に行くが、同一の場所の春夏秋冬の変化と、季節毎のふん開気をくみとらせるともに都心の子どもには大切なことだと思っ

て実施している。もっと具体的な考え方を述べるつもりが紙数の都合で書き足りないものになってしまった。

(筆者は城東幼稚園園長)

千代田区の野外保育

飯塚節子

私たち子どもの教育にたずさわる者の切なる願いは、すべての子どもたちが、幸福に、すくすくと育っていつてくれることでしょう。私の幼稚園、私の組の子どもという枠をはずして、広く子どもたちの問題に目をむけてみましょう。このたびは、都会の中心地の子どもたちの生活をみるために、東京の千代田区の野外保育を紹介しましょう。

千代田城を中心に旧麴町神田の両区を千代田区と云い、その中に国会、丸の内ビジネスセンターを控えて、千代田区の全地域の七分の五は皇居を始め公共用地であり、民有地は七分の二になっています。ここに、麴町地域は前にのべた公共用地をふ

くんでおり、また昔からお屋敷町として知られていますように、商店が少く、これにひきかへ神田地域は昔からの商店街でおの反対の性格を持っています。したがって野外子ども会に集る子どもたちもその地域によって特色をあらわしています。

これからのべる本区の野外保育は昭和二十五年に始め、幼稚園にも保育園にも行けない不幸な子どもたちを対象にしていますが、しかし、そのような幼児の減少した現在さらには範囲を拡げて一般の児童をも対象とする小ども会に発展してきました。野外保育を実施しております場所は、麴町神田両地域の児童遊園地十三カ所と、児童の数が多く保育を必要とする寮の空地など五カ所であります。神田地区には、児童遊園地が八カ所あります。ほとんどが道路に面して自動車の音、人の足音と雑音により私たちのせい一杯の声もかき消されそうになります。それに神田地域の子どもたちは商人の子どもが大部分なので人見しりをせず元気が良くて活潑ですがよくにくまれ口を口にし、私たちを困らせます。また神田と一口に云っても、省線のガード下の浮浪者の子どもたちも汚れた手足で子ども会に集って来ますので生活指導に力をいれております。子ども会のつど、顔と手を洗いま